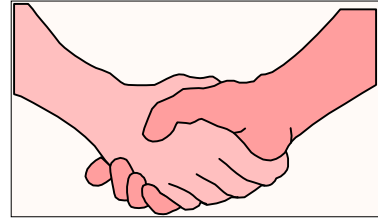


# レ ス ス ン プ ラ ン

1 学年      第 1 回      (コミュニケーション)



テーマ：「世界のあいさつ」

授業の目標：

- (1) 言葉を使わないコミュニケーションの方法があることを知る
- (2) お互い生まれ育った国が違うと多くの相違点があるが、同時に共通点も多いことに気づく
- (3) 異文化に接したときどのように感じるか経験する(面白い、興味深い、恥ずかしい等)
- (4) どんな文化・習慣も、“正しい/正しくない”“良い/悪い”ということはできないが、どれもその国では“適切”なものであることに気づく

用意するもの：

ALT

担当教師

- 外国の挨拶やしぐさのカード
- インドネシアのジャンケンの仕方

- 事前に”Hello”という挨拶の言葉の練習を子どもたちにさせておく

時間	活 動	気づいた点
3分	子どもたちはALTに英語であいさつする。 <b>担当教師</b> は、世界中の人々は言葉だけではなくしぐさも異なることを述べる。例として日本では、人に初めて会ったときどんなしぐさをするか尋ねる。	
5分	<b>担当教師</b> は“良いお辞儀”の例を見せる。 <b>ALT</b> は <b>担当教師</b> がやったようにお辞儀をし、必要に応じて子どもたちも一緒にALTのお辞儀に対してアドバイスをし、 <b>担当教師</b> はお辞儀の大切なポイントを強調する。その後、子どもたちはお互いにお辞儀の練習をする。	
10分	<b>担当教師</b> はALTの出身国ではどうかと質問する。 <b>ALT</b> は握手の説明をし、大切なポイントを解説する。(しっかり手を握る、相手の目を見る、相手にはほほえむ等) <b>担当教師とALT</b> が見本を示し、子どもたちも”Hello”と言いながら握手であいさつする練習をする。	
15分	絵を用いて <b>担当教師とALT</b> は他の国の挨拶を紹介する。 <b>ALT</b> は絵を見せて、子どもたちは、カードに書かれている説明を声に出して読む。(抱き合う、頬にキスする、鼻をこすり合う、手を合わせる、舌を出す等)子どもたちもそれらの挨拶をやってみる。	
5分	他国の挨拶をしてみて、どのような感じがしたかを話し合う。(恥ずかしかった!等)	
7分	楽しく他の例を紹介するために、子どもたちはALTに“じゃんけん”を教える。 <b>ALT</b> は“インドネシア式じゃんけん”を紹介し、子どもたちはやってみる。	
5分	<b>担当教師</b> は授業のポイントをまとめる。どの国のジェスチャーも良い悪いではなく、その国ではもっとも適切なものである。大切なことは、どんな言葉の話そうが、どんな言葉を使おうが、自分の気持ちを伝えようと努力することである。	

(1年生第1回授業用資料)

## ☆あいさつ

[あいさつカード]

- (1) 日本や韓国では、人に会うとお辞儀をする
- (2) インドやタイやインドネシアでは、人に会うと両手を合わせて、お辞儀をする。
- (3) ロシアの人は、人に会うと、たいてい抱き合う。
- (4) フランスやスペインや南アメリカでは、人に会うと、頬にキスをする。
- (5) イヌイト(エスキモー)やマオリ族の人たちは、人に会うと鼻をこすり合う。
- (6) チベットでは、人に会うと舌を出して挨拶する。

[ジェスチャーカード]

- (7) お祝いの時、つばを吐く。(東アフリカのキルク族)
- (8) 相手のみをじっと見つめて話をする。(ギリシアやアラブ)

## ☆その他のジェスチャー

- ・ 日本やその他多くの国では、首を縦に振ると“はい”を意味するが、ブルガリアという国では、それは“いいえ”を意味する。
- ・ 日本やその他アジアの国では、“自分”を意味するために鼻を指さすが、A L Tの出身国では“自分”を意味するには、胸を指さす。
- ・ 日本では、良いことを示すには手で丸をつくり、悪いことを示すには手で×を作るが、A L Tの出身国では、良いことは親指を立てて、悪いことは親指を下げて表す。
- ・ 国が違ると、“こっちへ来なさい！”を意味するジェスチャーは異なる。

## ☆インドネシア式じゃんけん

インドネシアでは、日本のじゃんけんに似た遊びで“象と人とねずみ”があります。

- ①親指を出すと象を表します。
- ②人差し指は人を表します。
- ③小指はねずみを表します。
- ④象は人間より強く、人間はねずみより強く、ねずみは象より強い。